

ている悩みが多く出された。

修法と葬祭の儀式が、農村寺院の経済を支えている実状に立って教師自身がどう切り変えてゆくか、現状を把握した教化対策を確立して久遠実成の本仏の実践者の活動にまでひきあげてゆくか慎重な検討が加えられなければならないであろう。

それらの具体的な教化対策として、すでに他の関連討議でもいわれている教化活動の協同化があげられ、管区における年度の布教方針を宗門の計画にそいながらも、具体的に地域の特長性を勘案した計画を管区内で協力して行っている例、あるいは、布教師会・修法師会・護法支部が三者一体となって伝道活動を実施している例などが紹介された。また、教化センターの設立・教化研究集会の定例の開催などによって、現状の認識・教化対策の確立・教師の再教育を行うべきであるという意見が出された。

言説布教は人が集らない。言説布教によっては入信の機会は難しい。農村の都市化の傾向は、住宅・団地・工場の誘致で一層加速を増している。といった意見の表出は、農村寺院にかぎらず都市寺院にもあてはめていえることであるが、伝統的な農村寺院のあり方が、農業の変動から強い影響を受けて脱皮をせまられている状況の中で、これらの問題を解決すべき方向として、さきに出された方法が具体的に対応して考えられるのではないかと思われる。

都市寺院における教化の問題点

(討議要旨)

複雑な要素を含みながら多様な変化を示しつつ、内的にも外的にも流動してやまない都市化現象の中で都市寺院の教化の問題は、重要かつ緊急の課題である。

都市教化は教団の現代化につながる問題であるという認識が持たれ、都市化現象の中における寺院の教化活動をどうするかという点に示ばられた。

都市寺院の教化の対象である檀信徒、或は非檀信徒を含めて、いわゆる、問題提起でふれた都市化現象の密集・移動・多称性の中で教化効果のプラス面マイナス面を把握・認識した上で対応策を考えてゆかなければならない。

そうした状況の中で、お寺らしくという理解をどのように深めていったらよいかという点については、行学二道に加えて社会福祉活動への参加、地域大衆の中に積極的に入ってゆくことが教化活動につながるものであるということまた、都市化は都市域に限らず、物の豊かさに加えて、内面的にも農村における都市化現象が認められ、それに対応する方策の検討に迫られていること、そして何よりも、先ず、できることから始めるといった実践の重要性と共に、如何にしたらという具体的実践例が望まれた。

教師と教化について

(討議要旨)

教化の場にある教師の悩みとして、変動の激しい現代は、個人的作業においての教化の有効な効果は望み得ない状況になりつつある。むしろ、葬祭儀式、或はチャーマン的な現世利益の習慣的低次の檀信徒の要求に押し流されているのが偽わざる現状である。

ここにおいて、教化の協同化が問題視され、護法運動を通して寺院の協同化が実動化された実績の評価と同時に困難な問題を含んでいる点も指摘された。

同一地域における文書伝道の出版物、団参などの協同化を着実に有効な積み重ねを進めながら、一方ではそれらをリードする宗門におけるモデルケースを作るべしという意見も出された。

都市伝道の中で、今後に残された課題として団地布教・スラム街布教があげられた。これらの問題は、個人の熱意をもってしても不可能であって、宗門的組織的な努力の積み重ねが必要である。特に団地布教は、今後、都市伝道の基本と見做さねばならぬ問題であって宗門が抜本的対策を考えなければならぬ時期にきている。これは非常に困難な問題であるが、しかし、これに取り組んでゆかなければ宗門は決定的な遅れをとることになるのではないか。

その方面の開拓伝道に従事せしめる具体的な対策として宗門の潜在的な能力となっている非住職者の活用があげられた。

岡元錬城師の「少年少女のための修養道場」のフレッシュでエネルギーな創意工夫にあふれた少年少女の教化あるいは、戦後ずっと青年活動を指導してこられた井田貞秀師の年輪を感じさせる味わい深い報告があったわけですが、このような報告を聞くにつきましても、宗門的な教化カリキュラムができていない現状において開拓者的な意気込みをもってなされたこうした貴重な経験を何とか教化カリキュラムの中で生かして宗門全体の共有財産としていきたいものだと思惑致します。

教化カリキュラムの問題につきましては、まず、作成の意義については、三田村師、北村師、木村師からそれぞれ指摘されている通り、計画性のある教化を可能ならしめること、従来個人ブレーに終っていたものを宗門の名のもとに統一性のあるものにしていくことに意義があるのではないか。

こうした教化カリキュラム作成をするということは、従来個人ブレーに任かされ、宗門はともすれば存在するのみであった。三田村師の言われたように、今後は行動する宗門でなければならないという宗門の重要なステップになる